

ケアプラザ富谷 です。



施設外観



多目的ホールのある日の風景

介護課職員とのグループワーク

◎私たちの施設の特徴◎

- ・当施設は、平成12年3月、富谷市明石台の住宅街の一角に開設された介護施設です。
- ・正式には一般財団法人労災サポートセンター宮城労災特別介護施設という名称で、全国に北海道、宮城、千葉、愛知、大阪、広島、愛媛、熊本の8か所に施設があります。
- ・労災年金を受ける重度の傷病・障害を有する被災労働者で、家庭内での介護が困難な、主に東北地方出身の受傷後数年から数十年経過した頸髄損傷、脊髄損傷、頭部外傷の方が入居しています。内訳は、ほぼ4:4:2の割合です。現在、39歳から88歳まで92名の方が入居されています。
- ・個室84床、4人床4室、計100床で、そのうち2床は短期滞在介護者用となっています。
- ・リハビリ関連職員は、理学療法士が1名です。

<リハビリテーションに関する連絡先>

一般財団法人 労災サポートセンター 宮城労災特別介護施設
 住所：〒981-3332 富谷市明石台4丁目8-1
 電話：022-772-3311 / ファクシミリ：022-772-3312
 URL：http://www.rousaisc.or.jp

黒川
地区

リハビリネットワーク通信 第20号

(平成30年9月発行)

発行元：
宮城県仙台保健福祉事務所
健康づくり支援班
022-363-5503 (直通)

Qにお答えします

Q. 労災特別介護施設に入所されている方々に対しリハビリで関わる上で、心掛けていること及び気をつけていることを教えてください。
(富谷中央病院)

A. 脊髄損傷による、両下肢麻痺や四肢麻痺、四肢不全麻痺の方が多いため、移乗動作ができるかどうか日常生活の中で大きな問題になります。そのための機能維持は大きなウェイトを占めます。また、転倒・転落による下肢の骨折、両肩の腱板損傷等には特に注意しています。

バトンでつなごう

一問一答 ～紹介リレー～



次回：こども発達センターあかいしの森
さんへバトンタッチ

●質問コーナー●

Q. 日頃、障害を持つお子さんやそのご家族と接している中で、どのような時にチームアプローチの大切さや、リハビリテーション専門職としての専門性を感じていますか。

「昼時の食堂前は 大渋滞」(理学療法士)

【解説】お昼の食堂は、日々電動車いすの方が二十五名程度、手動式車いすの方が四十名程度、独歩の方も数名利用されます。その他に食事を居室に運ぶ職員、食事介助する職員が入り乱れております。食事時間を前半・後半と分けていますが、それでも、早くから待機している方もいらつしやるので、入り口付近はいつも大渋滞しています。交通事故には気をつけております。

「花瓶もち エントランスで 花談義」(理学療法士)

【解説】施設のエントランスは、いつもお花で飾られています。お花がしぼんでくると、入居者の誰かがお花を買ってきて、職員(お花の師範の方)と、生け花教室が始まります。飾り終わるまで、ああでもないこうでもない、一時間程度調整調整しています。

「晴れた日は 朝からパチンコ ショッピング」(理学療法士)

【解説】施設周辺半径一から二キロメートル圏内にショッピングモール、スーパー、コンビニ、ホームセンター、果てはパチンコ屋さんまであります。入居者の半数程度の方が天気のいい日は、御自身の電動車いすや手動車いす、介護タクシーを利用して誰かしらお出かけになります。

リハビリ川柳